国際農業工学　レポート（開発コンサル）

国際協力における国際開発コンサルタントの役割

世界的にみれば各国の発展の程度はさまざまであり、その途上にある国に対しては、色々な事情から先進国の協力・援助が求められることがある。

その中での国際協力の取り組みは、社会基盤や情勢の点で、受け入れ国と協力する側の国との差異が概して大きい。そのため現場のニーズに真に応えるためには、受け入れ国側に実際に求められていることだけではなく、それを実現させるために満たすべき潜在的ニーズまで把握し対応することが求められる。そういった事情から、国際開発コンサルタントの役割は、国内での建設事業に増して活動が多様なものになる。農業の分野で言えば、農業水利や、農業用道路など、「農業」の基盤作りが求められることは国内事業のそれと変わりないが、農業という切り口だけではとらえきれないものまで十分に視野に入れなければならないことが考えられる。

例えば、講義で紹介された国際協力の現場では、一種の社会システムづくりまでが国際開発コンサルタントの職務内容となった。どのような共同体としてどのようなシステムの下取り組んでいけば開発が進むのか、といったモデル提供や、能力開発によって例えば「リーダー」という存在を提供する事も、ニーズを満たすためには必要となることが考えられる。現地のためにできるあらゆることが、役割となりうると言えるのではないか。

講義を受けて重要と感じた言葉の一つは、農業工学が「応用科学」であるということだ。人々の発展させた科学を、人々の為に用いる、という発想がそこにはある。その「人々の為に用いる」という営みの末端の所まで自分の目で見届け、責任をもつことのできる仕事として、国際開発コンサルタントの役割に魅力を感じた。学生の間の勉強であっても、なるべくそういった現場まで「行き届いた」目線をもって取り組めるよう、少しづつ精進したい。